

くるめ 障害者基幹 相談支援 センター通信

令和2年2月 7号

こんにちは！「基幹通信」です

特集インタビュー

西鉄バス久留米株式会社
誰もが住みやすい街、地域にしていきたい

インタビュー

親なきあとを考える
15歳から40年間、働いてきました

座談会

これからの障害者福祉を語ろう

提言

「リカバリー」に際限はない

特別寄稿

「尊厳死」「安楽死」を考える

基幹センター報告

「バリアフリーカフェ」報告

当事者分科会特集



音声コードを記載しています

西鉄バス久留米(株)インタビュー 2頁にて紹介しています

特集インタビュー

西鉄バス久留米株式会社
誰もが住みやすい街、住みやすい地域にしていきたい

「車いすユーザーが街に出ていかないと、本当のバリアフリーは進まない」
この思いで、当事者分科会の笠恒久さんは、日頃から、車いすで公共交通機関を利用しています。
今回、西鉄バス久留米株式会社(京町支社)を訪問し、
「バリアフリーの取り組み」について、坂田幸司支社長にお話を伺いました。

南部障害者基幹相談支援センター 松下 航

車いすで乗降

乗客誰もが手伝えること

笠 西鉄バスさんは街に出る時に度々利用します。乗る時は、乗務員さんが降りてきて階段の下からスロープを手で引っぱり出して、それから車いすを押してもらって乗るんですけど。

支社長 スロープ付きバスが、久留米で比較的多く導入され始めたのは、ここ4〜5年です。2台はノンステップバスで階段が無く床面を低くしており、スロープ自体も緩やかに出るようになっています。以前は、車いすの方は介助者がおられない場合、乗務員一人では抱えることができないので、介助者なしではご乗車いただけませんでした。

松下 スロープのないバスが来た時は？

支社長 ご乗車できません。抱えて乗せると乗務員や当事者の方が怪我をする場合があるからです。

笠 乗務員さんが最近と言わすけん。「これスロープ付いてないけん、ごめんね。次のスロープ付きのバスが来るまで待つ

とってね。」って。

松下 この前、笠さんがバスに乗る時に、祐誠高校の生徒さんが「手伝います！」って言って、「わっせー！わっせー！」と言って押してくれました。

支社長 乗務員が車いすを押している時、前から引張っていただいても助かります。

松下 そういうの、乗っている人がしていいのですね。「お手伝いしましょうか」って。

支社長 それは大丈夫です。

笠 乗っている人に手伝ってもらったことは、何回もあるよ。特に昔はスロープなかったけんね。

住みやすい街、地域に

笠 乗っても、車いすの固定でベルトを取り付けるのにも時間がかかるんよ。5分位かかる時もある。

支社長 乗車中の安全のためには、車いすの固定が必要です。また、この席の確保のためには、お客様に他の席に移っていただくご協力も必要です。

笠 乗務員さんが移つてと声かけしよる時、納得いついていないお客さんもあるみたいで。結局僕を見たら、「あ、車いすならしょうがないか」って。

支社長 乗務員は月1回の業務常会で、スロープの動作やベルト固定の確認などの研修を重ねながら、一生懸命に対応しています。が、当事者の皆さんに伝わっていない点も多々あるかとは思っています。

笠 僕個人は、「ご苦勞様です」とか挨拶して降りたりするので、案外、乗務員さんから「気を付けて行ってくださいね」とか言ってもらえるので、良い印象はたくさんあるんだけど。

松下 バスや電車での車いす利用が普通の風景になれば、誰もがそれに慣れていき、周りもサポートの仕方が分かるようになるのだと思います。

支社長 バスは、車いすや体の不自由なお客さま、ベビーカーご利用のお客さまなど様々な方々が利用されます。私達は、誰もが住みやすい街、住みやすい地域になれば一番だと思っています。
笠・松下 今日は有難うございました。



笠さん(左)
車いす用の席にてベルトで
車いすを固定しています



西鉄バス久留米(株)
京町支社坂田幸司支社長、
泉田幸徳主任(後列)に
ご協力いただきました。



西鉄久留米バスセンター0番・7番のりば
スロープが出しやすいように、スペースが確保され、
車いす乗客の乗降ができます。



障がい者割引
西鉄[nimoca]の
登録と更新を
お忘れなく!

割引の登録は、
西鉄久留米駅
内の定期券発
売所、各営業所
でできます。

nimoca